

脱”東京の劣化コピー”とロジックモデル活用

株式会社New Stories 太田直樹

”デジ田”の3期に向けて、2つ提言をさせていただきたい。

1) ネイチャーポジティブなまちづくり～脱”東京の劣化コピー”の機会

グローバルのスマートシティでは、ネイチャーポジティブが大きな潮流となっており、OECM¹やTNFD²といったグローバルのルール形成に伴って、民間投資を巻き込んだ形で、Nice to haveからMust haveになっていくと思われる。

日本については、”デジ田”やデジタル社会構想会議において、ネイチャーポジティブな政策/事業は影が薄いですが、一部の地域や企業では、海外からも注目される取組みが進んでいる。

以下のような取組みを、重点計画に加える/引き上げることが望まれる。

- ・ みどりの食料システム戦略等をまちづくりのレベルで位置付け、1次産業が生態系や景観をつくり、地域ならではのウェルビーイングや土地の魅力の源になることを明確化
- ・ 都市においては、脱炭素やネイチャーポジティブな行動変容を後押しするまちづくりを推進し、土木・建築領域のイノベーションを取り込む
- ・ ベースレジストリで、土地利用や生態系データを明確に位置付け、生態系の重要な単位である”流域”で活用しやすい形に整備

2) ウェルビーイング指標をアンケートで終わらせないためのロジックモデル活用

スマートシティサービスが、自然資本や社会関係資本等の経済以外を含めたエリア価値を形成する道筋について、ロジックモデルを活用することで明確になり³、実現可能性と再現可能性が可視化される具体例が生まれている（図1）。

デジ田事業が継続することについて不安を感じている地域が散見される中、再現可能性を高めることにより、デジ田事業を呼水に、民間投資が期待される。

以下のような取組みを、事業に取り入れることが望まれる。

- ・ ロジックモデルは短期から長期のアウトカムについての因果関係の体系であり、型化が可能（図2）。ロジックモデルの型の共有
- ・ 因果関係の要素である主観・行動データを、スマートシティサービスに組み込む形で、プライバシーやセキュリティに配慮しながら収集するしくみの共有

¹ OECMは「保護地域以外で生物多様性保全に資する地域」。いわゆる30by30達成のために、まちづくりにおけるネイチャーポジティブの実現は重要となる。

² TNFDは「自然関連財務情報開示タスクフォース」。炭素/Cの次は自然/Nが企業にとって重要な経営目標となる。

³ デジタル田園都市国家構想実現会議の第8回及び第9回の提出資料を参照いただきたい。

図1：ロジックモデルを活用した社会関係資本の蓄積の可視化

ロジックモデルを活用したWB・エリア価値形成：北谷公園の事例

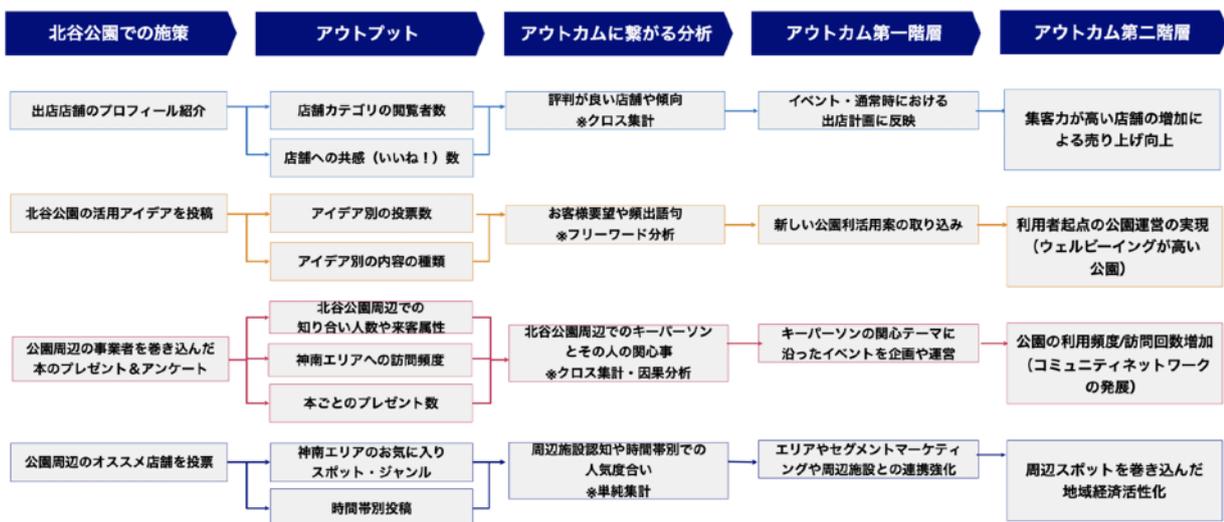
- ・ 渋谷区初のPark-PFI事業である北谷公園では、地域とともに公園の使い方を考えるしくみ「YOUR PARK」を導入（2021年）
- ・ 2023年から、ロジックモデルとデータを活用して、社会関係資本が豊かになる使い方の実現に着手



出所：しふきたパートナーズ（北谷公園指定管理事業者）、NEC

図2：ロジックモデルの型化

ロジックモデルの型化：公共空間を通じた社会関係資本の蓄積



出所：しふきたパートナーズ（北谷公園指定管理事業者）、NEC